

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度(令和5年度)で10回目となります。

中国四国農政局管内では161件の応募があり、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として7地区と2名が選定されました。

また、中国四国農政局では、応募のあった地区(者)の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として12地区と1名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として23地区と1名を選定しました。

さらに、今回は「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」が平成26年から始まり、第10回を迎えた記念として、過去に選定された優良事例の中から、選定後に著しい発展性がみられ、全国の模範となる事例を募り、18地区と4名の応募がありました。

今年度、応募のあった地区(者)の事例について、その地域の「農山漁村(むら)の宝」として広く発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にいただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページをご覧ください。

URL: <http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>

令和6年3月

中国四国農政局農村振興部都市農村交流課



目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」全国選定 及び 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」 の取組概要	1
○ 応募地区一覧	5
○ 応募地区位置図	6
○ 応募地区の取組事例	7

第10回ディスカバー農山漁村(むら)の宝 全国選定



島根県大田市

大田商工会議所

グランプリ

★漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。

★大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。



行列ができる飲食店のあなご天井と漁業者

島根県大田市

笠木 真衣

優秀賞

★平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ヒツジの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。

★農地(5反)を取得し米を作り、羊のフンや敷藁を堆肥化して活用。生産した米は「ヒツジ米」として販売。羊の放牧による除草や、自治会と共同で毛刈イベントを開催。



糸紡ぎのようす



ヒツジの放牧風景

高知県大月町

大月町備長炭生産組合

優秀賞

特別賞

★地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。

★地元小中高生への森林環境教育の継続的な開催のほか、育成した苗木を町有林に植栽することで資源循環利用による持続的産業を実現。



植樹祭



小学校での「製炭学習」

広島県神石高原町

株式会社BINGO

特別賞

★有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命を有効活用する取組。

★個体判別により食肉用とペットフード用に分けることで顧客満足度を向上させ、地域のジビエ肉のブランド化やペットフードの輸出も視野に入れるなど活動を拡大。



処理された猪肉



ペットフード
プロモーション活動

愛媛県伊方町

朝日共販株式会社

特別賞

★フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同し、しらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。

★バイオプラスチックトレイへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。



しらす漁



藻場礁設置

高知県黒潮町

特定非営利活動法人
NPO砂浜美術館

特別賞

★4kmの砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。

★砂浜に隣接したスポーツ施設を活用して合宿や大会を開催し、宿泊・弁当等を手配。また、南海トラフ巨大地震の津波予測をきっかけに防災学習プログラムを開発し、主に中高生の教育旅行を受け入れを実施。



Tシャツアート展



海の脅威と恵みを学ぶ
防災学習プログラム

- ★ECサイトやSNSを活用して消費者から事前に注文を受けて、必要な魚だけを得る国内初の「完全受注漁」を実施。
- ★水産資源の乱獲、価格の不安定性、漁師の過労問題、後継者不足問題といった、現在の漁業の課題解消に取組。



国内初の「完全受注漁」に取り組む富永夫妻



鮮魚セットを作っている様子

- ★オーナー不在のぶどう園を、リカレント教育受講を通じて関係構築した社会福祉法人と共に引き継ぎ運営。農福連携で生産した果実を加工し付加価値をつけて販売することで収益性を高めるとともに、サステナブルな商工農福連携活動を実施。
- ★収穫したぶどうの規格外品をジャム加工しパンを販売する他、農福連携事業者から苺を調達して新たなブランド化を行うなどの取組も実施。



オーナー不在の竹原市の令和5年 新ブランドぶどう園を再生 「果実なくリーむパン」

- ★地域の海・山・里の豊富な食材を一つの取組に巻き込むコンテンツとして「プリン」に着目。「デザート」と「デリカ(惣菜)」の2カテゴリーのプリンを活用した官民連携のまちおこしを実施。
- ★1次生産者等の所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上に向けて、広島みはらプリンの認定や催事への出店、販路開拓等を実施。



各催事では約15～20種のプリンを販売



ガイドブック「おでかけプリン」

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定



- ★沿岸漁業者(小型底曳網)が中心となり鮮魚を直売。平成25年から令和4年までの間、漁村市を28回開催。現在は年4回毎回1500人前後が来場。消費者と直接言葉を交わして魚の特徴、調理方法を伝え、効果的に魚食を普及。仲買と連携し、ふるさと納税返礼品としても提供。
- ★地元高校が市を課題研究の場とし、市の運営に協力。地元水産関係企業へ就職する生徒も。園児には売り場見学やタッチングプール等の食育も実施。



大盛況の中野港漁村市



高校生が未就学児に境港サーモンを見せる

- ★永田集落農地・水保全管理活動組織を中心に行ってきた棚田のシバザクラ植栽活動、農村景観による都市との交流の広域展開、更なる地域活性化のため令和4年度設立。シバザクラ9万本、花桃500本を植栽。
- ★春に「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。SNS等で積極的な情報発信を行い4年度は約4,000人来場。関係人口増と地域活性化に効果。



各スポットにシバザクラ花絨毯と花桃が満開に



「シバザクラの里猿隠高原比田米®」販売中!

- ★日生町にて漁協、小中高生、消費者等が協力しアマモ場を再生。アマモ場や再生活動を海洋教育の土台とし、地域内外の学校や市民、様々な業種の人々が地域や世代、立場を超え共に取り組む。
- ★海洋プラチックごみも、子どもたちと拾い、どこから流されてくるか一緒に考え、ごみを使ったアート作品を作る。令和4年度の海洋教育と体験の参加者数は2,532人。



アマモ流れ藻回収



小学生による海ゴミの回収

カンキツスタンドオレンジ

- ★様々な柑橘が生産されている瀬戸田地区が抱える、生産者の高齢化、柑橘加工品の販売先確保等の課題解決の取組。
- ★地元の株式会社Stapleが令和4年7月から瀬戸田の柑橘を専門に扱うジューススタンドをJR尾道駅1階に開業。農家と直接取引を行い現在23種類の柑橘ジュースを販売。令和4年度売上は10,800千円。
- ★取引生産者は3軒から10軒まで増加。店舗販売以外に広島市内や都内でのイベントに積極的に出店し、瀬戸田の柑橘をPR。



店舗で販売をしている
ジュース・かき氷



瀬戸田の柑橘農家と
共同開催をした
ジュースの試飲会

株式会社神東ファーム

- ★平成30年、神東地域振興協議会が地域おこし協力隊員とレモン栽培を構想中「後発組は希少価値の高い新品目で勝負」とマイヤーレモンを選択。
- ★栽培方法を習得後、同協議会の部会「レモンの会」を発足し、借り受けた耕作放棄地を開墾。行政の支援で(株)神東ファームを設立。
- ★地元銀行等の支援を受け、地元大手スーパーや老舗旅館など県内販路が定着。果汁100%の「そのまんまのマイヤーレモン」も今年から販売し千数百本が完売。令和4年度の収穫量は7t、売上は3,400千円。



11月頃のマイヤーレモン



小学生の農業学習

一般社団法人 そらの郷

- ★世界農業遺産認定「にし阿波の傾斜地農耕システム」による農山村のサステナブルな暮らしを体験する観光で、観光客増による所得向上、新たな雇用創出等地域活性化に取り組む。
- ★体験型教育旅行として、都市部中学生・高校生の受入家庭での農作業体験、収穫物の共同調理など農泊体験を商品化。
- ★農山村散策や農家での餅つきなどを組み込んだツアーによるインバウンド誘致が、「桃源郷」と称される農山村の風景や文化、地元農業者等のホスピタリティの面で高く評価されている。



伝統的な農作業
ツチアゲ体験



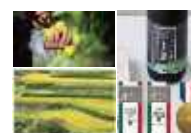
地元農家との交流
(餅つき体験)

株式会社本家松浦酒造場

- ★酒造会社が県内の様々な関係者と連携して行う取組。
- ★平成元年から原料を全て徳島県産にした日本酒の製造や平成24年から徳島県上勝町の棚田米を使用した日本酒、ゆこう使用のリキュールの製造の取組を通じ、生産者と連携。近隣の醤油蔵と連携した見学会を実施。令和4年度は直売所来場者15,876人、売上は26,000千円。輸出にも取り組む。
- ★大阪国際万博等のインバウンド需要を見据え、YouTubeなどで酒蔵地域周辺を案内する多言語化動画の配信やHPを作成。



酒蔵でのイベント
開催



棚田米やゆこうを
使った酒造り

一般社団法人さぬき市津田地区 まちづくり協議会

- ★津田地区の海辺を中心としたエリアリノベーションと農泊の推進。
- ★使わなくなった漁業倉庫や空き家への新規出店希望者の誘致、移住者支援を実施。令和4年に市と連携し地域おこし協力隊制度を活用した新規出店(ピザ店)をきっかけに出店増加。応募時点で4店が開店し今後も開店予定。
- ★地域おこし協力隊募集の際、採用者以外の応募者も協議会等がサポートし、家族を含む9名が市内に移住。



PORTO
PIZZA



空き家DIYの様子

愛媛県西条市

愛媛県立丹原高等学校 草花班

- ★地域を花木の一大産地とするため産官学民が連携し、苗の生産技術を確立する取組で、苗生産が不安定な品目の穂木～発根～出荷のプロセス構築の研究を同校が担当。
- ★同校の菊栽培技術を応用し平均19%の発根率が62%と有効性を確認。挿し穂の直径や挿し木時期による違い、地元JAと連携した生育環境での違いも調査。農家に還元可能な技術として成果は県東予地方局の「花木栽培マニュアル」に掲載され普及。地域では花木を主とした新規就農者も誕生。そのほか花木のPR活動も実施。



花木のPR活動



産官学民連携
プロジェクト成果発表

愛媛県宇和島市

企業組合津島あぐり工房「あすも」

- ★平成15年創業。地域の豊かな農水産物の加工品・惣菜など製造販売。地域農産物の需要拡大と、地域経済活性化による成長持続型活動を展開。
- ★平成24年「企業組合津島あぐり工房」として法人化。農家レストラン「あすも」をオープン。令和4年度の売上は42,000千円。スタッフが創業当初の4人から9人に増え、令和4年から廃校活用の新店舗に移転。
- ★平成30年西日本豪雨災害の教訓で始めた月一回の「ふれあいモーニング」は1日100人以上が来店。地域コミュニティの場に。



人と食、人と地域、
食と地域をつなぐ活動一覧



廃校教室を活用した農家
レストラン部門「あすも」

高知県香南市

井上ワイナリー株式会社

- ★高知の気候・風土に適したブドウ品種を選び、県内各地の生産者と一緒に栽培。県内各地の様々な料理と合うワインを醸造し高知の新しい食文化を提唱。
- ★平成24年に南国市で定植以来、栽培を5市町に拡大。耕作放棄地も再生。地元の老人クラブや高校生に収穫やラベル作りの手伝いを依頼。
- ★令和3年に自社醸造を開始、令和4年にショップを併設。ワインの試飲・販売、地域食材使用のグロスリー商品等販売。売上は令和4年度61,822千円。



地域の方々と共に
収穫作業



地元高知産ブドウを
使用したワイン

高知県津野町

農村交流施設「森の巣箱」運営委員会

- ★住民の声をきっかけに、廃校となった旧小・中学校の校舎を活用し平成15年に設立した「森の巣箱」は、集落コンビニ、居酒屋、宿泊施設を備えた複合交流施設。
- ★安定経営のため、運営費用は各世帯の出資金、世帯毎に毎月「購買協定」を締結。宿泊施設で得た外貨も活用した、補助金に頼らない運営。施設職員(常勤1名、パート1名)以外住民も役割分担。
- ★イベント開催や修学旅行生受入も実施。令和4年度の売上は、コンビニ1,636千円、居酒屋1,282千円、宿泊施設3,039千円。



集落コンビニ



居酒屋

徳島県阿波市

寺井 稔

- ★平成24年に発足した阿波市の農業後継者グループ「GOTTISO阿波」の中心メンバーとして活動。
- ★農業や野菜の魅力発信、所得向上や農業人口増加を目指した活動、野菜の出張販売や広報を行い、地域のナスをブランド化。ナス好きの子供を増やそうと地元幼稚園や小学校で食育実施。
- ★グローバルGAP等を取得し2020東京オリ・パラの選手村へブランドナスを納品。それをきっかけに輸出、新たなブランド野菜育成に努める。



コロナ禍が明け
試食販売を再開



食育の授業

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第10回選定) 応募地区(者) 一覧 (島根県)

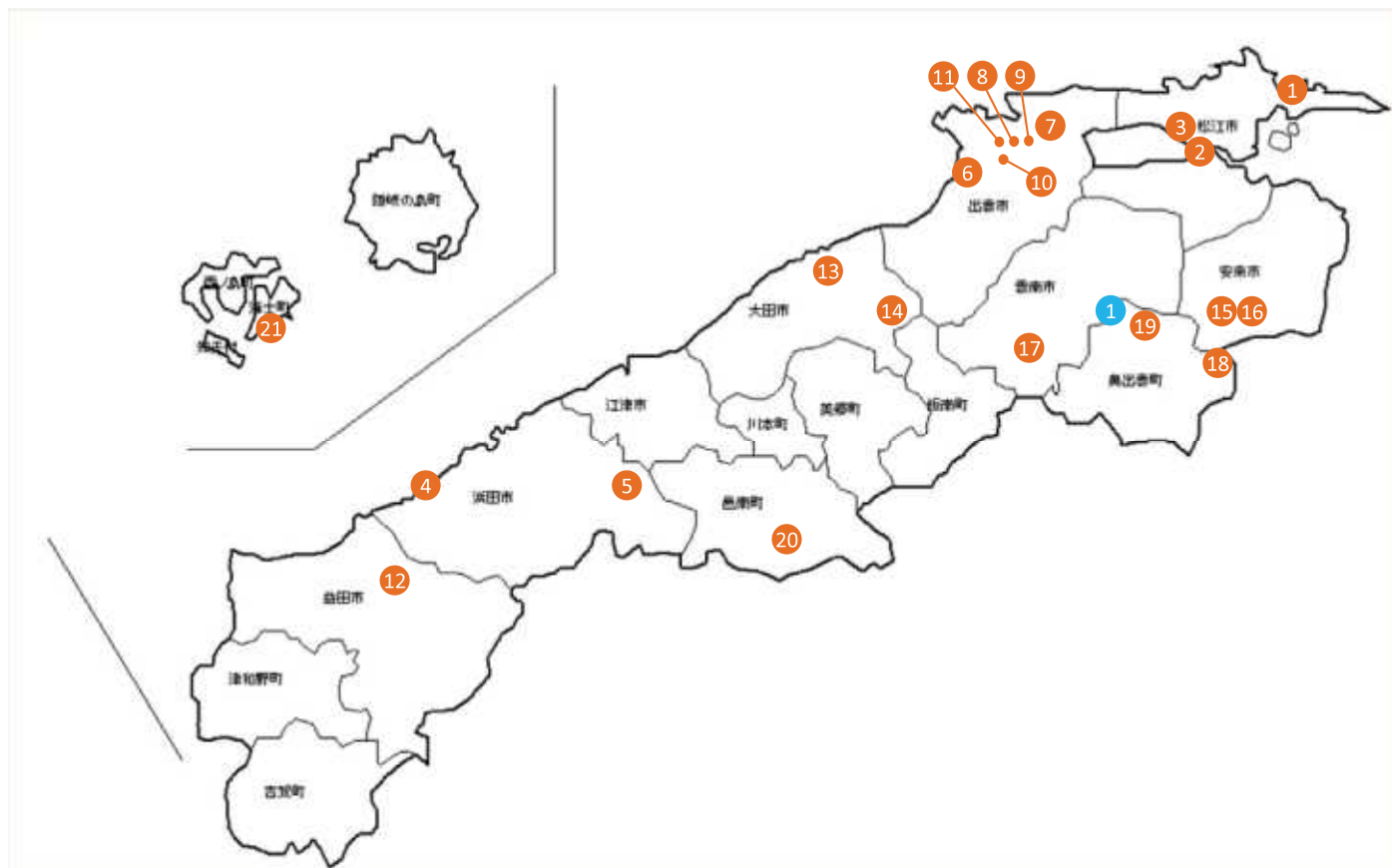
No.	選定地区	部門	市町村	地区名/氏名	該当する取り組み		
①		個人	松江市	青戸 裕司	移住・定住	農村文化体験	関係人口の創出
②		団体	松江市	認定NPO法人自然再生センター	食育・教育	環境保全	ローカルSDGs
③		個人	松江市	平井 聡士	多様な分野との連携	新たな特産品開発	－
④		団体	浜田市	橋本商店株式会社 道の駅 ゆうひパーク三隅	地産地消	伝統の継承	関係人口の創出
⑤		団体	浜田市	有限会社 岡村工務店	雇用	女性の活躍	6次産業化
⑥		団体	出雲市	株式会社オリーブ園・夢創庭	荒廃農地対策	農業	6次産業化
⑦	奨励賞	団体	出雲市	久多美ふれあい実習園運営委員会	農業	教育機関との連携	学生・若者の活躍
⑧		団体	出雲市	地球食堂サークル	食育	地域交流	生産体験 収穫体験
⑨		団体	出雲市	鳶巣環境保全協議会	環境保全・ 景観保全	教育機関との連携	6次産業化
⑩		団体	出雲市	日伯農工株式会社	荒廃農地対策	移住・定住	6次産業化
⑪		団体	出雲市	矢尾環境保全組合	環境保全・ 景観保全	荒廃農地対策	動物愛護
⑫	奨励賞	団体	益田市	なでしこ	荒廃農地対策	食育・教育	農村環境・ 環境保全
⑬		団体	大田市	大田商工会議所	コミュニティ	地産地消	企業との連携
⑭		個人	大田市	笠木 真衣	農業	6次産業化	女性の活躍
⑮		団体	安来市	えーひだカンパニー株式会社	農業	移住・定住	6次産業化
⑯		団体	安来市	シバザクラの会	環境保全・ 景観保全	教育機関との連携	女性の活躍
⑰		団体	雲南市	日本たまごかけごはんシンポジウム実行委員会	地産地消	企業との連携	関係人口の創出
⑱		団体	奥出雲町	竹崎本郷集落協定	農業体験	景観保全	地域活性化
⑲	奨励賞	団体	奥出雲町	農事組合法人 石原里田	荒廃農地対策	地域活性化	体験学習
⑳		団体	邑南町	しまねおおなんチーズ工房(石橋悦子)	6次産業化	地産地消	女性の活躍
㉑		個人	海士町	古川 岳	水産業	地域の活性化	－

第10回記念賞応募地区(者)

No.	部門	市町村	地区名/氏名	過去の選定実績
①	個人	奥出雲町	ダムに見える牧場(大石 亘太)	令和4年度(第9回)選定 (優秀賞)

応募地区（者）位置図（島根県）

※ 青は第10回記念賞応募地区（者）



あ お と ゆ う じ
青戸 裕司

～漁村まるとテーマパーク、だねyou!～



好評の3人乗りカヤック洞窟へ



「民食」地域の民家で夕食システム

経緯

- 美保関町片江地区は国立公園内にある漁村であり、ジオパークにも認定されている。
- 国際交流活動で40か国の人とお世話をした経験から外国人对応ゲストハウスを開いたが、観光地ではないこの静かな漁村にどうやって集客するか。特にインバウンドを意識したユニークな方法はないかと考えた。

取組内容

- 地域資源、地域人財を活かしたゲストハウス「かたゑ庵」を運営。
- 宿泊者の夕食は、地元の中高齢者のその自宅で提供（「民食」と呼ぶ）。
- また、ジオパーク内の恵まれた海や洞窟の自然の資産を活かし、カヤックツアーという人力で環境にやさしくエコなツアーを実施。

活動の効果

- 地区の皆さんの協力を得ながら始めたこの取組。漁師とは、「海酒DOBON」という海をワインセラーに見立て、預かったお酒を海に沈めて熟成を味わうといったプロジェクトにつながり、ジオガイド取得は、地域の埋もれた魅力の創出につながっている。最終目的は移住者を増やすことであり、これまで4件の家族が移住。移住者は、カヤックのサポーターとなったり、古道の整備など地域の新たな人財として活躍。

応募団体からのアピール・メッセージ

漁村ならではの生活感溢れる風景。観光地でないこの漁村が観光地のような看板だらけになったら、この景観はダメになる。目立つ看板も設置せず、敢えて旅行サイトにも入らず口コミ重視の「かたゑ庵」に、ぜひ一度訪れてみてください。

住所・電話番号・SNS等

住所：松江市美保関町片江396 電話番号：0852-55-8600

にんていえぬびーおーほうじん しぜんさいせい

認定NPO法人自然再生センター

～「オゴノリング」でローカルSDGsを実践中！～



オゴノリ刈りの様子



畑にオゴノリを撒く様子

経緯

○中海・宍道湖の淡水化事業が中止となったことで、大量にオゴノリ（藻）が発生し、漁協関係者を悩ませていた。化学肥料のなかった時代にオゴノリ（藻）を土壌改善材として活用していたことから、刈り取ったオゴノリを畑にすき込み、農産物を栽培することで、地域で循環型社会を構築できないかと考えた。

取組内容

○中海や宍道湖をフィールドに、海藻の利活用で、地域や人を巻き込み、経済を含めた循環型社会（農業）への取組。
○適量が残るように配慮しながら、伝統手法で増えすぎたオゴノリを刈り取る。
○オゴノリを土壌改良材として畑に撒き、作物を育て販売したり、ペレット肥料にしたもので農家さんが米を作る。
○収穫された作物は、食の安全にこだわるパン・菓子店等で原料としても使用。

活動の効果

○オゴノリ採取は、漁師さんを中心に地域学生や体験希望者によって伝統手法により行う。また、刈り取ったオゴノリを土壌改良剤として漉き込んだ畑で野菜を栽培。苗付けや収穫などは、市民に広く募集をかけ、自分が蒔いた種や苗の発育を学習しながら、収穫物は美味しく安心な食物として食し、SDGsを実体感できる。
誰もが参加できる取組みは、地域住民や学生を巻き込み、年々輪が広がっている。また環境教育の面から、循環型農業、食の安心を考えるよい機会となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

自然再生センターは海藻を利活用し、人・モノ・お金を循環させた市民参加の通称「オゴノリング」の実施で、SDGsへの意識変化を調査すると同時に、企業や研究者による中海の浚渫窪地の環境修復事業による環境変化の調査・研究もしています。

住所・電話番号・各種SNS等

住所：松江市天神町127 電話番号：0852-21-4882

ひらい さとし
平井 聡士

～ご縁をつなぎ、新たな島根の特産品を開発！～



東京でPOPUP販売会を開催



島根の特産品が集う「島根県物産館」での販売



経緯

- 島根県には魅力的な資源が多い一方、常に持ち歩き島根を感じられるような特産品が少ない事に着目。県が誇る「しまね和牛」の原皮を活用した革製品を特産品化することを考えた。
- この活動は、様々な人とのご縁をつなぎ、地域の活性化や畜産資源の有効活用に資するほか、地域を学ぶ教材としても活用できるとの思いからスタート。

取組内容

- 有効活用されていなかった「しまね和牛」原皮に注目し、皮革小物、野球グラブ等新たな地域特産品を開発・販売。
- 原皮の入手から製造販売までを人脈を活かして完遂。
- 島根県出身の若者との野球グラブづくりで協業。

活動の効果

- 「しまね和牛」皮革の製品化を実現
想いを共有することで多くの方とご縁がつながり、3年弱で販売に至った。この活動を通して「しまね和牛」のPRに貢献し、新たな可能性を発掘。和牛生産者からも応援いただける取組になった。
- 世代や地域を超えSNSで交流し「ふるさと島根へ貢献したい」想いを具現化
全国で活躍する元プロ野球選手など、多くの若者から製品化へのアドバイスを無償協力してもらって製品化。次世代へ「しまね和牛」の魅力と可能性が継承されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

令和4年、和牛のオリンピックで肉質日本一を獲得した「しまね和牛」。製品紹介の際には、その生産過程も含め説明することを意識しています。また、「地ビール」のように、「地レザー」として地域の特産品開発へ波及していけるのではないかと思います。

住所・電話番号・SNS等

推薦者：島根県農林水産部畜産課 電話番号：0852-22-6022

はしもとしょうてんかぶしきがいしゃ

みち えき

みすみ

橋本商店株式会社 道の駅 ゆうひパーク三隅

～石見地域の地産地消品の専門販売 道の駅～



道の駅 ゆうひパーク三隅からの景観



イベントの様子

経緯

- 山陰道の完成による交通量の減少やコロナ禍による売上減少により前経営者(第3セクター)が撤退。浜田市の指定管理業務として事業を引き継いだ。
- 経営を維持継続するため、地域の農海産物を販売できる場所として地域活性化を図る取組を進めている。

取組内容

- この道の駅を訪れることが目的地となるよう、石見地域の特産・民芸品を取り揃え、展示販売により地域の活性化を図る。
- 絶景日本海の海岸線を列車が走り抜ける景観は、撮り鉄ファンには魅力的な場所となっており、夕日とともにインスタ映えする施設として生まれ変わった。
- 島根ならではの産品を地産地消品としてPRするほか、フードコートでは一部の商品を調理加工し提供している。

活動の効果

- 道の駅では、国道の情報提供に加え、地域の伝統芸能や観光名所の紹介のほか、地域と密着したイベントを季節ごとに開催することで来館者は増加している。
- 「日本一POPアートな道の駅」と題し、海岸線を走る列車撮影ができることや島根県のキャラクター「しまねっこ」のモニュメントや多くの壁画など、道の駅全体をリニューアルしたことで、老若男女を問わず思い思いに記念撮影が楽しめる場所となり、地域特産品等の販売も合わせ、地域や道の駅の活性化につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本海の海岸線と鉄道が同時に望める景観はこの道の駅の持つ強みであり、この景観とPOPアートを活かしながら特徴ある道の駅に変化させることを継続し、「せっかく島根に来たなら、この道の駅に寄らねばね」と言われるようチャレンジを続けます。

住所・電話番号・SNS等

住所: 浜田市三隅町折居220-1 ホームページ: <https://www.michi-no-eki.jp/stations/views/19531>

ゆうげんがいしゃ おかむらこうむてん

有限会社 岡村工務店

～中山間地域に女性の力で新しい風を吹かせる！～



地域の方との笑顔創成



栽培作業の地元中学校支援学級との連携活動

経 緯

- 浜田市旭町丸原地区は、高齢者の居場所や雇用口がわずかな中山間地域にあり。特に高齢女性が活躍できる場づくりのため活動を開始した。
- きくらげの菌床栽培、販売を切り口として、女性の雇用創出や居場所づくりにより地域活性化を目指すこととした。

取組内容

- きくらげを用いた自社ブランドを立ち上げ、他産地との差別化を図っている。
- 地元の中学校と共同できくらげのオリジナルキャラクターを商標登録したほか、売上げの一部を動物愛護団体への寄付活動に取り組んでいる。
- 自社生産のきくらげを地元学校給食に提供するほか、ふるさと納税返礼品として提供している。

活動の効果

- 地域の高齢者、在宅主婦、夏休みの高校生のバイト先など、様々な年齢層の雇用機会を設けたことで世代間の交流が生まれ、地域社会の交流に寄与できた。
- 約9割を輸入に頼っているきくらげを自社生産し、学校給食へ提供することで地産地消に繋がったほか、地元中学校の支援学級生徒を作業体験として受入れ、食育活動にも貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

先代社長の「周りの人が喜ぶことをやることで自分たちも幸せになる」との想いを引継ぎ、きくらげの栽培からスタートした「居場所」「コミュニティ」の創出を、今後も様々な形で幅広く地域に根付く取組にチャレンジし、次世代に継承したい。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

住所: 浜田市旭町丸原116-1 電話番号: 0855-45-0033 ホームページ: <https://nekono-mimi.com>

かぶしきがいしゃ

えん むそうてい

株式会社オリーブ園・夢創庭

～ しあわせの雫 出雲産オリーブオイル ～



オリーブ園での収穫の様子



収穫前のオリーブの実とオリーブオイル商品

経緯

- 出雲市内はブドウ栽培が盛んな地域だが、高齢化や後継者不足が進行している。
- ブドウ園の廃園や休耕地が年々増加傾向にあるため、観光農園や地域貢献も視野にオリーブ栽培の取組を始めた。

取組内容

- 平成26年に廃園・休耕地の再利用を目的にオリーブを92本植栽。島根県の気候は栽培に適さないため試行錯誤しながら取組む。
- 令和5年時点、栽培は4.5ha、2,100本まで拡大し、オリーブの実を収穫。
- 収穫したオリーブを自社で搾油・加工まで行い、地域の特産品を目指す。

活動の効果

- オリーブ栽培は島根県では難しいと思われていたが、令和元年から本格的に収穫し、令和3年にはオリーブの実を約1,200kgの収穫し、自社での搾油までに至った。
- オリーブ収穫後は、24時間以内に自社工場で搾油して、酸価値(0.12mg/g)の低い良質なエキストラバージンオイルを生産することができている。
- 地域の特産品とするため、令和4年に出雲推奨商品「おいしい出雲」に認定登録された。今後、収穫量を増やし、加工食品・美容分野の商品開発に取組む。

応募団体からのアピール・メッセージ

曇りや雨の日が多く、オリーブの栽培には不向きな土地で、実際に実が取れるか心配されたり、収穫量も少なくオリーブオイルの商品価格も高額で手軽な商品になっていないが、ブランディングを行い、出雲市の特産品として認めらるよう取組みたい。

住所・電話番号・SNS等

住所：出雲市神西沖町1687-11 電話番号：0853-27-9868

奨励賞

く た み

じっしゅうえんうんえいいんかい

久多美ふれあい実習園運営委員会

りんごが繋ぐ～物を作る・土に親しむ喜び～



加工したジャムにふるさと自慢シールを張り付ける様子



りんごの収穫作業

経 緯

- 旧久多美小学校の所有する土地の活用を保護者・地域の代表者と協議。
- 久多美地区は農業が盛んで、柿以外知名度がなく、担い手の高齢化等の課題が顕在化。
- 子どもたちにりんご栽培を通じ、土に触れ、農産物を作る喜び、将来、地域農業の担い手に育てて欲しいとの思いで委員会設立し活動。

取組内容

- ◎平成11年:りんご120本植樹
- ◎平成13年:りんご初収穫
- ◎平成14年:りんご収穫祭開催、りんご音頭披露
- 《年間作業の主な流れ》
- 4月りんごの名札づくり
- 5月下旬 摘果作業(全校児童で実施)
- 6月下旬 袋がけ作業(4年生以上で実施)
- 8月下旬～ 収穫作業
- 1月中旬～2月下旬 枝の剪定
- 3月 枝拾い・追肥作業

活動の効果

- りんごを収穫するまでの一連の活動を通して、収穫の喜びを味わい、ふるさとのよさを体感するとともに、リンゴジャムの瓶への「ふるさとラベルの作成・貼り付け」や、授業公開日、地域の文化祭でのジャム販売を通して、子どもたちの達成感がより高まった。
- 様々な作業体験を通して、農業生産の喜びや苦労を経験することで、食料生産に対する意識を高めるとともに、保護者や地域の人々と一緒に様々な活動でふれあいを深めることによって、「ひと・もの」への感謝の意識を持つようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

りんご音頭の詩を全校児童から募集し、児童や父母・地域の意識を高め、りんご生産・加工の取組に発展。また、福祉施設と連携したジャム加工は、6年生児童の意識を高め、自慢シール作成やりんご皮・芯を餌にするSDGsへの意識にもつながっている。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

住所: 出雲市東福町453 電話番号: 0853-63-2614

ちきゅうしょくどう

地球食堂サークル

～畑からはじまる隠岐海士町の島食文化の伝承～



地球食堂での学生と子ども達の調理・盛付風景

海士町「島食の寺子屋」で島食を習得する学生達

経緯

- 島根県の豊富な食材を用いて地域の食文化の魅力を発信するため「海士町の島食を用いた多文化共生プロジェクト」を立ち上げ。
- 島根県ならではの味を地域の子供たちやその家族、島根県在住の外国人や島根県を訪れる旅行者などにも味わってもらい、地域活性化に結び付けることを目的に取組んだ。

取組内容

- 地球食堂では、地域の子供たちが調理・喫食・片付け・遊びを通し、地域の方々、海外・県外の来訪者と、年齢、国籍を問わず交流できる場を提供している。
- 活動1: 隠岐郡海士町の島食を用いた食文化伝承
- 活動2: 地元食材の栽培・収穫体験
- 活動3: 活動内容をSNSで世界に発信

活動の効果

- サークル学生が、島の食文化と日本料理の技術習得により島の食文化の伝承。
- サークル学生及び地域住民が地元野菜を栽培・収穫し、献立作製から調理、喫食までを一元化して地球食堂利用者と共に活動し、地元食材の魅力を伝承。
- SNSの発信により、地域の子供達や外国人に「和食の魅力」を伝え、さらには地球食堂の活動を通して地元食材への認識を深め、食への感謝の気持ちを育んだ。

応募団体からのアピール・メッセージ

地球食堂は、利用者の子供達・外国人が安全を考慮しながら調理・喫食・片付けまでの一連の食行動を一緒に行なうことで、地元食材や苦手な食べ物などの食体験が、将来、地域の食文化を担う子ども達の豊かな食生活形成に役立つと願う。

住所・電話番号・SNS等

住所: 出雲市 電話番号: 0853-25-9138 メールアドレス: e-arai@u-shimane.ac.jp

とびすかんきょうほぜんきょうぎかい

鳶巣環境保全協議会

～ 楽しく環境整備 ～



ブルーベリージャムを文化祭で販売



地区の子供たちが楽しく収穫

経緯

- 地域資源の保全管理のため平成19年度に地区組織として鳶巣環境保全協議会を設立。
- 市長との意見交換で、地域の特産となる農産物栽培を考えてほしいとの提案があり、地域で協議し、遊休農地を活用したブルーベリー栽培を開始。

取組内容

- 遊休農地を活用したブルーベリー栽培。
- 地区内の小学校や障害福祉施設の子供と連携・交流した幅広い収穫体験を提供。
- 小学生や福祉施設の体験学習としてブルーベリージャム作りも始まり、地域のイベントで販売、また、令和4年からはボランティア活動として中学生も収穫に参加。

活動の効果

- ブルーベリー栽培の取組は、遊休農地の解消に効果を上げ、また、小学校と福祉施設との子供同士の交流が始まり、一方で、ブルーベリージャム作りも始まり、地域の女性が中心となって加工が始まり、女性活躍の場も生まれている。
- ブルーベリー栽培から地域の交流が始まり、また、子供たちが授業で考えたブルーベリージャムが実際の商品となり自ら食すことで、子供たちが将来の職業への関心も高まってきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

ブルーベリー栽培の取組、収穫体験などが記憶に残り、子供たちの成長後も会話でブルーベリーの活動が出る、地区を忘れてないのだと感じています。今後も、鳶巣地区の楽しい思い出、記憶を残す体験を子供たちと一緒に取組みたいです。

住所・電話番号・SNS等

住所: 出雲市東林木町890-4 電話番号: 0853-21-0174

にちはくのうこうかぶしきがいしゃ

日伯農工株式会社

～過疎化地域を六次産業で救う？ブラジル人～



幼稚園の皆さんと芋ほり交流会



キャッサバフライ販売中



日本初！キャッサバ芋焼酎の仕込み

経緯

- 前年度まで不安定な雇用環境にあるブラジル人の雇用の場をつくるため、「イズモ・アグロブラジル」として活動してきた。
- 農産物販売のみでは雇用人数が頭打ちになることから、過疎化が進む地区にある空き物件(工場)を譲り受け、日伯農工株式会社を設立。6次産業化を目指す。

取組内容

- 大学、NPO法人主催のフォーラム、地域の町おこしイベントなどにおいて、活動内容やブラジルの文化を紹介。
- 幼稚園児を招いての芋掘り交流、養護学校高等部生徒による工場清掃など、地域住民との交流を図っている。
- キャッサバフライを商品化し地元スーパーで販売するほか、地元酒蔵の協力を得て日本初のキャッサバ焼酎を製造。

活動の効果

- 私たちの活動が知られるようになり、活動内容やブラジルの文化を紹介する機会が増えてきている。
- 日本ではなじみがなかったキャッサバ芋などの農産物も認知度が上がり、焼酎をはじめとした商品開発や商談につながっている。
- これまでの活動を通じて地域での交流が盛んになってきており、今後も新たな地域での交流を広げていきたい。

応募団体からのアピール・メッセージ

運営資金の確保等の課題はあるが、国籍の違いから気持ちがバラバラにならないように、互いの文化や価値観を尊重しながら、会社事業を通じて多文化共生社会の実現に貢献していきたい。

住所・電話番号・SNS等

出雲市渡橋町203-5 電話番号:070-8431-4605

やびかんきょうほぜんくみあい

矢尾環境保全組合

～矢尾の未来に向けて地域づくり～



整備された花のプランター



千年ハスを植えた池

経緯

- 平成19年度に「農地・水保全管理支払交付金」の導入を契機に組合を組織して、水路及び農道の補修を計画的に実施。
- 環境保全や動物愛護の観点で新たな方向として、遊休地を活用したビオトープの設置、除草効果も踏まえたヤギの放牧場などを整備し、植栽も併せた癒し空間を設置することとした。

取組内容

- 約60年前に整備された用水路を補修計画に基づき補修を実施。
- 農道の「わだち」の補修作業。
- 川の法面の草刈りを6月と7月に実施。
- 出雲全日本大学駅伝が行われる国道沿線にコスモス・ひまわりを植栽、休耕田にはビオトープを設置し、池に「大賀ハス」を植栽、池の周囲には芝生を植栽、マリゴールド等の多くの花をプランターで管理。

活動の効果

- 用水路の補修は累計約930m以上となり、水稻の生育管理が改善。
- ヤギ牧場は周辺の除草効果が期待され、また、地域の子供たちとヤギとの触れ合いが「癒し」効果の発揮を期待され、除草・野菜クズなど廃棄の受皿になっている。
- 大学駅伝コース沿線のビオトープやコスモス植栽は景観改善に効果を発揮している。

応募団体からのアピール・メッセージ

1年間を通して「花」のある公園を目指すとともに、その技術を習得したい。癒し空間を充実するために、ヤギも増頭するとともに、取り組みを継続していくために、互助組織として休耕田の管理を受託するシステムを構築していく。

住所・電話番号・SNS等

住所：出雲市矢尾町576 電話番号：0853-23-4764

奨励賞

なでしこ

「まめ・こめ 母さん」の地域で楽しくアンサンブル

～次世代へ引き継ぎたい地域の食農～



真砂保育園児と植栽ひまわり



真砂保育所での味噌仕込み体験

経緯

- 当地区は、市中心部より15km離れた山間地帯で、高齢化率は53%、耕作放棄地が増加している。
- この地区で昔から各家庭で造っていた味噌を復活させ、販売したのがきっかけで、保育園児や小中学生への農業体験や、景観作物植栽などで地域の元気作りをしようという思いから活動を開始。

取組内容

- 畦畔やほ場に桜の木やチューリップやひまわりを植栽し、景観づくり。
- 環境に配慮した栽培方法で農産物を生産、加工。真砂地区のブランドとして「地域ブランドラベル」を貼付して販売。
- 地域の園児や小中学生に味噌づくりや農作業体験の場を提供。
- 活動の様子をSNSで情報発信。

活動の効果

- ほ場の畦畔に、地域の子供たちと共に桜の木を移植し景観づくりを開始。ほ場には、チューリップやひまわりを植栽することで、地域住民の心を癒す景観になっている。
- 環境に配慮した農産物栽培を実践。栽培した大豆と米で味噌を製造、販売。真砂ブランドの定着が図られている。また、地域の園児や小中学生に農業体験を行い、食育につながっている。
- 活動の様子をSNSで情報発信しており、地域外から活動に参加する人もいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

中心メンバーである、自称「まめ・こめ 母さん」3人は、時には意見がぶつかり言い合いをしながらも、それ以上によく笑っています。活動は楽しく、地域の皆さんからの「頑張っとるね、無理せんようにね」などの声掛けが、何よりの励みです。

住所・電話番号・SNS等

住所：益田市下波田町 電話番号：0856-26-0123



おおだしょうこうかいぎしょ
大田商工会議所

グランプリ

～隠れた資源を磨き上げ域内消費拡大へGO！～



行列ができる飲食店のあなご天井と漁業者



あなご料理コンテスト入賞作品

経緯

- 全国トップクラスの漁獲量を誇る大田市産あなごだが、大半が県外に出荷され、市内での消費はゼロに近い状態だった。
- 地元産あなごは、他産地と比べ型も大きく旨味成分も高かったことから、市の活性化を目指し「大田の大あなご」の名称でブランド化の取組を始めた。

取組内容

- 観光DMOや行政、飲食店等を巻き込んだ協議会を立ち上げ、料理コンテストの開催や出前授業を通じて、大あなごの魅力を継続して発信した。
- 地元飲食店や加工業者には、大あなごの提供や商品開発を依頼した。
- ロゴマーク、パンフレット、幟、警察署の標語等のデザイン作成まで職員が知恵を出し合い、ほぼゼロ予算で取組む。

活動の効果

- 大あなごのブランド展開は、地元漁業者をはじめ仲卸、小売、飲食店、食品加工、旅館等の様々な業種に売上の増加をもたらしたほか、あなごの地産地消にもつながっている。
- 大あなごの認知度向上に従い、大あなごを活用した事業展開が、行政、警察署、学校等の機関へも普及しており、市全体で役立てられている。

応募団体からのアピール・メッセージ

更なる「大田の大あなご」の知名度向上を目指し、地域の魅力を体感できるコト消費メニュー等を整備していきます。ぜひ、旅の醍醐味である「食」を求め、旨味のある「大田の大あなご」を食べにきてください。

住所・電話番号・SNS等

住所：大田市大田町大田イ309-2 電話番号：0854-82-0765



か さ ぎ ま い

笠木 真衣

優秀賞

～うちのヒツジは空を飛ぶ！羊毛製品を世界へ～



糸車による糸紡ぎのようす



ヒツジの放牧風景

経緯

- 糸紡ぎを通じて羊毛繊維の素晴らしさに圧倒され、それを生み出すヒツジに強い興味を持った。
- 平成30年に三瓶山麓へ移住しヒツジの放牧を始めたが、自家産羊毛を活用できる方法は既存のものが全くなかった。
- ヒツジの飼育・毛刈りから製品企画、販売まですべての工程を一貫して自らで行う事業を始めた。

取組内容

- 原毛の洗浄法を研究し、羊毛と環境への負荷が少ない方法にしている。ヒツジの魅力を最大限に生かした製品を販売している。
- 年1回の毛刈りをイベントにして、近所の方と一緒に楽しく遊んでいる。製品をふるさと納税の返礼品としている。移住者向けの広報活動に参加している。
- ヒツジを田の周囲や休遊地に放し堆肥をつくり、出来たコメを「ひつじ米」として販売している。里山の景観維持にも寄与している。

活動の効果

- テキスタイルの品質・背景が高く評価され令和2年に全国コンテストでグランプリを受賞した。世界最大のファッション素材見本市の審査を通過しパリで出展した。海外ラグジュアリーブランドの各バイヤーから高い評価を得て商談を進めている。国内ではウールソックス・カーペットを販売し、売り上げが年々増加している。
- SNSを活用してヒツジや地域の様子・製品情報を継続的に発信した結果、イベント参加者や放牧風景を見に来る来訪者も増え、関係人口の増加に寄与している。

応募団体からのアピール・メッセージ

ヒツジが好き、という思いでとにもかくにも活動してきました。いきなりやってきてよくわからないことを始めたにもかかわらず、温かく見守ってくださる地域の皆様に、特に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

住所・電話番号・SNS等

ホームページ：<https://non-non.farm/> Instagram: @kasagifiberstudio メール: info@k-f-s.jp

えーひだカンパニー株式会社

～比田を愛し、行動し、誇りに思える地域に～



地域ビジョンづくり



直売所えーひだ市場

経緯

- 人口減少による地域存続の危機感から、平成28年に住民アンケート、ワークショップを通じて88項目からなる10年後の目指すべき地域像「比田地域ビジョン」を策定。
- 地域ビジョンの具体化、持続可能な体制構築のため、平成28年8月に任意組織「えーひだカンパニー」を設立し、平成29年3月に法人化。

取組内容

- 水稻（主食、酒米）、小麦、そばなどを栽培し、令和4年度からは特産のどじょう養殖にもチャレンジ。ドローンやラジコン草刈機を導入し、育苗・防除・除草などの作業を受託し、農家をサポート。
- 地場産農産物を使用したパンや日本酒等の製造・販売、直売所やカフェの運営。
- 高齢者の買い物支援を行うため、移動販売車による訪問販売を実施。

活動の効果

- 法人が経営する農地は徐々に増え（令和5年度で4.9ha）、リタイヤする農家の農地の受け皿となっている。
- 地域資源をフル活用することと、地域内外から一緒にチャレンジしたい若者を加えながら、会員メンバーの得意分野を活かし、地域ビジョンの項目を実践しており、令和4年度時点で41個の戦略プランに取り組んでいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

経営理念として、住民自ら地域づくりを行う「自治機能」と、自治機能を発揮するために必要な財源を生み出す「生産機能」の発揮による地域ビジョンの実現を掲げ、行政任せやボランティアばかりに依存しない地域づくりを目指しています。

住所・電話番号・SNS等

住所: 安来市広瀬町梶福留1268 電話番号: 0854-26-4010 ホームページ: <https://e-hida.co.jp/>
Facebook: <https://www.facebook.com/kyoumoEhida/> Instagram: https://www.instagram.com/ehida_ichiba/



かい

シバザクラの会

『今日もえーひだ』～シバザクラの里永田～



各スポットにシバザクラ花絨毯と花桃が満開に



「シバザクラの里猿隠高原比田米®」絶賛販売中！

経緯

- 永田集落は山間地域に位置し、急傾斜の法面面積は農地の3割を占め、高齢化が進む中、地域資源である農地を次世代に継承する上で欠かせない草刈り作業が最大の重荷となっていた。
- 草刈りの省力化を図るため平成26年度から始めた畦畔へのシバザクラ植栽の共同活動は、令和4年度には地域から離れて暮らす子や孫（他出子）も構成員に加えたシバザクラの会を設立し、都市間交流をより広域に展開。

取組内容

- 令和4年度までに、シバザクラ9万本、花桃500本を水田畦畔等12,000㎡に植栽。
- 開花シーズンには「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。県内外から多くの方が訪れる一大イベントを実施。
- 鳥取大学、島根大学と連携し、春のシバザクラ祭り、秋の植栽作業に合わせてインターンシップを受け入れ。
- ブランド米「シバザクラの里猿隠高原比田米®」を販売。

活動の効果

- 植栽活動は、畦畔草刈作業の省力化に加え、法面崩れによる土砂流入等災害防止効果も得ている。また、集落の女性を中心に、次世代の若者、他出子、ボランティア等が参加し地域の活力を高め、インターンシップをきっかけに定住者も現れた。
- 「猿隠高原シバザクラ祭り」は、県内外からの消費を呼び込み、関係人口の増加と地域の活性化に多大な効果を得るとともに、来場者からいただいた緑化協力金は、シバザクラの美観維持につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

シバザクラの植栽活動を通して地域を守り、次世代に自信を持って地域資源を継承していくため、『今日もえーひだ（比田or日だ）』をスローガンに掲げ、地域コミュニティを活性化させ、地域住民が「毎日がいい日だ」と思えるよう「日本で一番の里づくり」を目指します。活動に興味を持っていただけの方、シバザクラの植栽活動を体験してみたい方をお待ちしています。

住所・電話番号・SNS等

住所：安来市広瀬町東比田 電話番号：0854-34-0336 Facebook：猿隠高原シバザクラの里永田

にほん

じっこういいんかい

日本たまごかけごはんシンポジウム実行委員会

～TKG(たまごかけごはん)で町おこし～



たまごかけごはんを食べる吟味会会場



町並みを会場としたウォークラリー

経緯

- 市町村合併後に雲南市吉田町となったが、住民からは町が寂れてしまうとの声が聞かれた。
- 旧吉田村の時に、過疎化・雇用創設対策として設立した株式会社吉田ふるさと村を中心に、地域の農産品を活用した町おこしイベントを企画し、地域の活性化を目指すこととした。

取組内容

- 地域農産物の米・醤油・卵を活かすため「たまごかけごはん」をテーマとしたシンポジウム企画し、毎年10月最終日曜日に開催している。
- 全国規模のシンポジウムを開催することで、中山間地域の農業振興や農産品の消費拡大につなげる。
- 吉田町の魅力発信や島根県の知名度アップにつなげる。

活動の効果

- 「日本たまごかけごはんシンポジウム」は、全国から吉田町にTKGファン約1,000人が集まるイベントに成長した。当地の美味しい米、製造にこだわった醤油、近隣市町を巻き込んだ卵の消費が拡大したことで、地域産業の振興に貢献できている。
- 当地は、日本古来の製鉄技術「たたら製鉄」で栄えた街並みや遺構が現存しており、その町並みの中でシンポジウムを開催することで、吉田町の魅力発信ができたことや島根県の知名度アップに貢献できている。

応募団体からのアピール・メッセージ

全国的なTKGブームの火付け役となったこのシンポジウムは、コロナ禍でも形を変えながら18年間継続して開催しています。これからも実行委員会メンバーを中心に過疎の進む吉田町に「賑わいと元気を起こす」ため取組みを進めます。

住所・電話番号・SNS等

事務局：株式会社吉田ふるさと村 住所：雲南市吉田町吉田1047-2

たけざきほんごうしゅうらくきょうてい

竹崎本郷集落協定

～ライトアップ！星空！田舎でしょ！～



農業体験(田植え作業)



秋の棚田風景

経緯

- 当地は、1,400年前から「たたら操業」が行われており、中山間地域等直接支払制度の協定内には「追谷棚田」があり、つなぐ棚田遺産に認定されている。
- 棚田は県外からの視察者の提案もあり、ライトアップ事業として「灯」をテーマとしたアートイベントを開始した。

取組内容

- 砂鉄採掘の「鉄穴(かな)流し」跡地にできた棚田を活用したライトアップイベントを開催し、SNS等で情報発信する。
- 棚田を活用した農業体験(田植え、稲刈り)や、収穫した棚田米はインターネット等で販売している。
- 外部団体と連携し、古民家の改修を進めており、将来的には農泊事業に発展させる。

活動の効果

- 棚田が一望できる展望台を整備したことで、昼夜を問わず来訪者の目を楽しませることができており、コロナ禍でも奥出雲町への集客増加に貢献できている。
- 農業体験の受入れにより交流人口が増加。「源流にた米こしひかり」として販売する棚田米は年間9トンの実績を維持し、農家収入の確保に貢献している。
- コロナ禍でも打ち上げ花火を新しく企画するなど、地域からも好評を得ている。

応募団体からのアピール・メッセージ

棚田を含めた自然豊かな景観や夜空には溢れるほどの星空など、都会にはない何かがある奥出雲町にはあります。これからも美しい景観や農村・農業を次世代につなぐため、地域一体となり協力体制を維持し、様々な取組を進めていきます。

住所・電話番号・SNS等

窓口：奥出雲町農業振興課 住所：仁多郡奥出雲町竹崎 電話番号：0854-52-2679

奨励賞

のうじくみあいほうじん

いしはらさとだ

農事組合法人 石原里田

～奥出雲町の当たり前は当たり前じゃない～



一般参加の田植え体験(令和4年)



農泊(令和2年)

経緯

- 集落内の空き家所有の耕作放棄の増加や米価下落による営農組合活動継続への先行き不安から集落消滅の危機感があった。
- 営農組合を法人化し、経営基盤の強化を図るとともに、地域活性化や後継者育成のため、幅広い体験活動等を展開し、関係人口増加の取組を始めた。

取組内容

- 自治会を単位とした農事組合法人を中心に地域での話し合いを進め、守るべき農地を保全する取組を進めている。
- 食育体験活動やイベントを町内外に情報発信することで、関係人口の増加を図る取組を進めている。
- 地域が日本農業遺産に認定されたため、古民家を活用した農泊事業の取組を展開している。

活動の効果

- 任意組合を法人化したことや地域の話し合いにより守るべき農地を定めたことで、地域内の連帯意識が高まり、水稻以外の作物も積極的に取組むことができた。
- 地域内外を含めた食育活動・情報発信により、関係人口増加につながっている。
- 日本農業遺産に認定された棚田の古民家を活用した農泊事業に取組んだことで、宿泊者の感想などから、奥出雲町の良さを地域住民が再認識できた。

応募団体からのアピール・メッセージ

近年ではコウノトリも舞いおるほど自然や生態系の豊かな奥出雲町。当地域の「いわけ」棚田は「つなぐ棚田遺産認定」に認定されています。これからも「ご縁」を大切にしながら、棚田の古民家を活用した農泊や新しいイベント企画に取組んでいきます。

住所・電話番号・SNS等

住所: 仁多郡奥出雲町三所638 電話番号: 0854-54-0968

こうぼう いしばしえっこ

しまねおおなんチーズ工房（石橋悦子）

～ひとつひとつ手作りしたこだわりチーズ～



しまねおおなんチーズ工房の外観



こだわりのstringチーズ製造中

経緯

- 親会社の倒産に伴いチーズ工房を閉鎖。
- チーズの製造できる環境・施設はそのまま残っており、「もう一度作れないか」という思いが募った。
- 元上司と工房の土地所有者、生乳の供給牧場と話し合いを重ね、その協力を得て一念発起した。

取組内容

- 生乳は供給牧場の搾りたてを使用し、その日のうちに加工。現在、8種類のチーズを製造し、新商品の開発も進めている。
- 商品は直売所・道の駅、スーパーや飲食店などへ販売。店頭での試食販売や県内外のイベントに参加し、ファン拡大に取り組む。
- 農林水産省の「牛乳でスマイルプロジェクト」に参加。乳製品の消費拡大にも取り組む。

活動の効果

- 店頭での試食販売やイベント参加を通じて取扱店舗も増え、県内外からの問合せや来訪者も増加しており、地元のおいしい牛乳を使った商品をより多くの人に提供している。
- チーズ工房を再開したことで、微力ながらも地域活性化や乳製品の消費拡大などに貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

添加物等は一切使用せず、日々変化する天気や気温に合わせ、PH値や温度など刻一刻と変化する生乳の状態を正しく見極め調整し、徹底した製造工程管理の元、一つ一つ手作業により、こだわりのチーズへ仕上げています。

住所・電話番号・SNS等

住所: 邑智郡邑南町山田75-1 電話番号: 0855-83-0007 ホームページ: <https://www.ohnan-cheese.com/>

～うまい魚は漁師がつくる～



テレビ放送と海中での処理の様子



小学校での講義風景

経緯

- 国産の魚の減少や日々の素潜り漁で海中の変化を感じ取り、資源管理ができる魚突き漁こそが究極の漁法であると思い立ち、魚突き漁師として活動を始めた。
- 乱獲し大量廃棄するのではなく「質に特化し、美味しい魚を消費者へ」をモットーとしている。

取組内容

- 消費者に「質の良い魚」を届けるため、独自に研究を重ね、離島からの輸送ハンディを解消するための取組を進める。
- 魚突き漁をすることで、資源保護につなげていく。
- 魚突き漁の認知度を向上させるため、小学校での授業への参加やメディアを通じたPR活動に取り組んでいる。

活動の効果

- 魚の品質を維持・向上させるため独自に研究を重ねた結果、「熟成」に向けた魚をつくることができた。これにより通常の3～4倍も長持ちし、魚の「旨味」を最大限に引き出すことに成功したほか、離島からの輸送ハンディを克服できた。
- メディアをとおしたPRのほか自ら販路拡大に取り組んだことで、魚突きの魚の品質が高いことが認められ高値で販売できたうえ、資源保護にもつながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

海士町でただ一人の魚突き漁ですが、「量より質」に特化し、これからもうまい魚を離島から日本各地や世界各国へ提供できる漁師を目指し、取組を進めていきます。

住所・電話番号・SNS等

住所：隠岐郡海士町御波798-4 電話番号：080-3844-6411

記念賞
応募み ぼくじょう おおいし こうた
ダムに見える牧場（大石 亘太）

～地域に開かれた、200年後も残る牧場づくり～



大学生による焼き畑の様子



小学校の社会科見学



観光客への説明対応

取組内容

- ダム湖周辺の山間地に牛を放牧することで、里山の景観を形成するとともに、牛にストレスを与えない飼養管理に努めている。
- 観光協会と協力した農業体験の提供や地域の教育機関から校外学習を受入れ、酪農の魅力を発信する取組を行っている。

前回選定後の情報発信の取組

- 令和4年度の選定を機に来場者が増加したため、関係者の間で機運が盛り上がり、新たな体験アイテムを提供できるよう、加工所兼店舗の建設に向け準備を進めている。
- ダム周辺ではキャンプ需要の高まりに応えるため、店舗兼農家民泊や牧場を活かしたキャンプ場を設営し、ダム周辺の活性化を推進する取組を進めている。
- テレビや新聞の取材、視察受入、県の施策推進YouTube出演、国交省会議パネラー出演等。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- これまで夢物語としてとどめていた、自家乳を活用した加工品製造や販売店舗の併設が、関係者との連携で実現に向かい、より収益力の強化を期待している。
- 選定を機に、一般の消費者や地域内外から小中学校の来場が増加したこと、国立大学法人島根大学のフィールドワークの場として提供・協力をしてきたことなどを通じ、酪農業の魅力発信を幅広く展開することができた。

応募団体からのアピール・メッセージ

四季折々の姿をみせるダムに見える牧場。酪農業界全体は明るい話題が少ないご時世ですが、農業や酪農が楽しいという姿を見せることで、地域の農業振興の一助として当牧場が期待されるよう、楽しく前向きな雰囲気大切に取組を進めていきます。

住所・電話番号・SNS等

住所：仁多郡奥出雲町佐白529-1 電話番号：090-2006-5238